

# 近代日本の「植民地」政策から問う「国家」

ジャーナリスト 岩田万理 評

欧米列強の侵略を強く恐  
れていた明治維新後の日本  
は、国防の名目で沖縄、北  
海道、台湾、朝鮮を次々と  
領有していった。

これら新領土は緩衝地  
帯、つまり日本の中心部を  
守るためのとかげのしっぽ  
のようなもので、同地域の  
人々は、無理矢理日本の一  
部に組み入れられながら捨  
て石としか扱われないとい  
う矛盾に翻弄された。例え  
ば、南方からの攻撃に備え  
て日本は沖縄を併合して同  
化を強要したが、その一方  
で併合から三十年以上もの  
間、参政権は認めなかった  
のである。

膨大な言説を集めて精密  
に分析することで、本書は  
このような日本の都合主  
義を浮き彫りする。調査に  
かかった時間と根拠を考え  
ると、敬意を払わずにはい  
られない。

ところで、このように人  
々を利用してはいる国家とい  
うものの正体は何だろう。  
答えは簡単なようで簡単  
ではない。なぜなら、100%  
非境界の日本人など実際は  
ほとんど存在しないから  
だ。東北地方出身者は藩閥  
政治の中で差別され、男子  
の高額納税者だけが選挙権  
を持ち、沖縄人は自分たち  
の地位向上を訴えるあまり  
アイヌや台湾人をおとし  
している。本書は今夏の発

著者自身も本書の中で指  
摘しているように、中心と  
境界を単純に二分するのは  
現実を反映していない。大  
小の差こそあれ構成員のほ  
んどは国から疎外され、  
構成員同士も疎外し合い、  
十重二十重に巻かれた疎外  
のヒエラルキーの上に国家  
は存在していたように見え  
る。その中心に何があるの  
か。国家の正体は曖昧だ。  
著者はおそらく、こんな  
正体不明なものに躍らされ  
る理不尽も十分理解してい  
て、近代国民国家というシ  
ステム自体の再考をも提案  
している。本書は今夏の発

売以来、高い評価を得てい  
るが、書評のポイントが「境  
界線上の人たちを国益のた  
めにとことん利用した日本  
のずるさを暴いた」ことに  
集中しているのは残念だ。  
なぜ国家や国益などという  
曖昧で正体不明なものが、  
人々に対してそこまで力  
を持ち得たのかを考えなけ  
れば、過ちは繰り返される  
だろう。日本人の境界は今  
日も、恣意的に作り得るの  
である。

上記四地域の人々をめぐ  
る膨大な言説を集めて精密  
に分析することで、本書は  
このような日本の都合主  
義を浮き彫りする。調査に  
かかった時間と根拠を考え  
ると、敬意を払わずにはい  
られない。

ところで、このように人  
々を利用してはいる国家とい  
うものの正体は何だろう。  
答えは簡単なようで簡単  
ではない。なぜなら、100%  
非境界の日本人など実際は  
ほとんど存在しないから  
だ。東北地方出身者は藩閥  
政治の中で差別され、男子  
の高額納税者だけが選挙権  
を持ち、沖縄人は自分たち  
の地位向上を訴えるあまり  
アイヌや台湾人をおとし  
している。本書は今夏の発

著者自身も本書の中で指  
摘しているように、中心と  
境界を単純に二分するのは  
現実を反映していない。大  
小の差こそあれ構成員のほ  
んどは国から疎外され、  
構成員同士も疎外し合い、  
十重二十重に巻かれた疎外  
のヒエラルキーの上に国家  
は存在していたように見え  
る。その中心に何があるの  
か。国家の正体は曖昧だ。  
著者はおそらく、こんな  
正体不明なものに躍らされ  
る理不尽も十分理解してい  
て、近代国民国家というシ  
ステム自体の再考をも提案  
している。本書は今夏の発

売以来、高い評価を得てい  
るが、書評のポイントが「境  
界線上の人たちを国益のた  
めにとことん利用した日本  
のずるさを暴いた」ことに  
集中しているのは残念だ。  
なぜ国家や国益などという  
曖昧で正体不明なものが、  
人々に対してそこまで力  
を持ち得たのかを考えなけ  
れば、過ちは繰り返される  
だろう。日本人の境界は今  
日も、恣意的に作り得るの  
である。

## 〈日本人〉の境界

小熊英二 著

(新曜社 五八〇〇円)

☆おぐま・えいじ

一九六二年東京生まれ。

東京大学農学部卒。出版社

勤務を経て、九八年東京大

学教養学部総合文化研究科

国際社会科学専攻博士課程

修了。現在、慶応義塾大学

総合政策学部教員。著書に

『単一民族神話の起源』ナ  
ショナルティの脱構築』(共  
著)など。